

アニコム ホールディングス 2026 年 3 月期 決算説明会 Q&A サマリー

2026.5.13

Q: 損害率が 2026 年度に 63.4%まで上昇する見通しとなっている背景と、中期経営計画で想定していた 61~62%水準に向けた今後の対応方針について伺いたい。

A: 損害率上昇の背景としては、保有契約ポートフォリオの高齢化に加え、動物病院におけるインフレ影響や高度医療の進展に伴う医療費高騰と認識している。一方で、掲げている 61~62%水準に変更はなく、予防の推進や保険料改定等を通じて、損害率改善を図っていく方針である。

Q: 今回、自己株式取得枠を 10 億円とした根拠、および 7 月開示予定の ESR(経済価値ベースのソルベンシー比率)を踏まえた余剰資本の考え方について伺いたい。

A: 今回の自己株式取得については、現時点での ESR 試算を踏まえ、適正な資本水準を維持可能と判断し、10 億円の取得枠を設定した。また、ESR 導入後は一定の余剰資本が生じる可能性があるが、中期経営計画で掲げる累計 60 億円の株主還元方針を踏まえ、自己株式取得と配当のバランスを勘案しながら、株主還元を行う考えである。

Q: 資産運用方針の見直しについて、考え方を伺いたい。

A: リスク管理を前提としつつ、運用収益力強化に向けてアロケーションの見直しを進める方針である。これまでの運用はインカム資産とキャピタル資産の配分を概ね 7 対 3 とするインカム重視で進めてきたが、今後は 6 対 4 程度へ見直し、キャピタルゲインの獲得強化を図っていく考えである。

Q: 今後の資産運用ポートフォリオの配分について伺いたい。

A: これまでの運用は債券中心で進めてきたが、今後は債券残高の一部を縮小し、株式等の比較的利回りの高い資産への配分拡大を進めていく考えである。また、満期のない債券 ETF については段階的にポジションを見直していく方針であり、株式投資については、日本株を中心に TOPIX 連動型や高配当・比較的lowボラティリティ銘柄を軸に運用していく

考えである。

Q: 過去の決算説明会において、損害率改善の目処が立ったとの説明があったが、その背景について伺いたい。

A: 慢性疾患に関する分析を行ったところ、生活習慣や口腔環境等が損害率に大きく影響している可能性を統計的に認識した。特に、幼少期からの歯磨き習慣や食生活改善による予防効果について一定の手応えを得ており、今後はこうした予防型アプローチを通じて、損害率改善に繋げていく考えである。

Q: 予防の推進による改善効果を織り込んでいながらも、損害率上昇を見込んでいる背景について伺いたい。

A: 予防の推進による損害率の改善は一定程度見込んでいるものの、計画へは保守的に織り込んでいる。また、動物病院における診療単価上昇が継続していることから、医療費上昇を一定程度織り込んだ計画としている。

Q: 通期経常利益 50 億円の予想に対し、上期 40 億円・下期 10 億円と上期偏重となっている背景について伺いたい。

A: 異常危険準備金戻入額が第 1・第 2 四半期に偏る傾向となっていることに加え、資産運用のアロケーション・ポートフォリオの見直しに伴う運用益を第 1 四半期中心に見込んでいるためである。なお、当該偏りは会計上および運用上の要因によるものであり、事業の季節性自体に大きな変化はない。

Q: 資産運用の見直しに伴う資産運用収益の見通しについて伺いたい。

A: 通期ベースで前期比約 1.5 倍程度を見込んでいる。市場環境やポートフォリオ見直しを踏まえながら、運用益の積み上げを図っていく方針である。

Q: 社外取締役候補として光通信の大和田氏を選任した背景、および同氏に期待する役

割について伺いたい。

A：光通信グループは、事業運営効率化や資産運用分野において高い知見を有しており、当社としては、保険事業やペットフード販売事業を含む事業運営全般における改善提案や効率化に関する助言を期待している。加えて、今後強化を進める資産運用分野においても、同グループのノウハウを参考にしていきたい考えである。

Q：『JARVIS どうぶつ医療センターTokyo』の提携病院数の状況および今後の展開方針について伺いたい。

A：提携病院数は足元で増加しており、現在は1,000件近い水準まで拡大している。一方で、近年は飼い主自身が高度医療を選択するケースが増えており、提携病院数の拡大が紹介件数増加に直結する状況ではなくなっている。関東圏では一定の提携網構築が進んでいることから、今後は地域ごとの高度医療拠点整備を進めていく考えである。